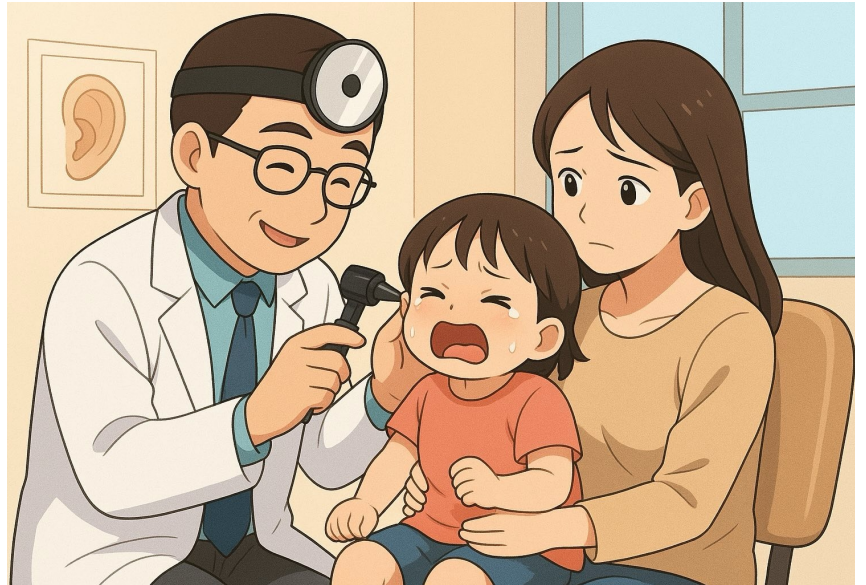


何度も中耳炎、発熱を繰り返すのはなぜ？

保育園症候群

保育園に通い始めた子供が、発熱、気管支炎、肺炎、扁桃炎、中耳炎を繰り返すことを、「保育園の洗礼」や「保育園症候群」と呼ばれます。

病名ではなく、「風邪」と同じように、一般人が使う言葉です。特別な病気ではなく、どの子も経験する通過儀式です。心配いりません。時期が来れば、必ず治ります。



小児科で熱の原因が分からなければ耳鼻科を受診しましょう

どうして保育園に行った途端に、発熱を繰り返すのでしょうか？

保育園症候群の原因 3つ

- 1 きれいな家庭から汚い集団生活に放り込まれる
- 2 2歳以下はまだ免疫機能が未熟で感染しやすい
- 3 集団内で感染が広がる（お友達との接触）

いつまで発熱や中耳炎が続くの？

保育園症候群の時間経過

- 1 保育園デビューから3ヶ月目がピーク
- 2 その後、9ヶ月もすると発熱しなくなる

参考文献：SCHUEZ-HAVUPALO L, TOIVONEN L, KARPPINEN S, KALJONEN A, PELTOLA V. DAYCARE ATTENDANCE AND RESPIRATORY TRACT INFECTIONS: A PROSPECTIVE BIRTH COHORT STUDY. *BMJ OPEN*. 2017 SEP 5;7(9):E014635. DOI: 10.1136/BMJOPEN-2016-014635. PMID: 28877939; PMCID: PMC558939.

家で育てられていた頃は、感染症から守られた、きれいな環境でした。

保育園に行くと、感染症に触れる機会が増えます。免疫がまだまだ不十分な2歳未満は、そのたびに感染症を発症してしまいます。2歳を過ぎると抵抗力がついて、発症しなくなります。

また保育園では「発熱はないけど、鼻水や咳をしているお友だち」も一緒に過ごします。鼻水・咳が出ていても、気にすることなく遊び回るので、部屋の中あちこちが、感染源になってしまいます。

2歳未満の幼児、感染源の多い環境が、保育園症候群の原因です。

2歳以下（左矢印）で免疫が未熟な理由

生後半年で、母親由来の免疫は低下します。赤ちゃんは自分で免疫を作り始めますが、2歳ごろにようやく成人の80%に到達します。免疫力が低い、生後6ヶ月から1歳頃に保育園デビューするので、感染するのです。

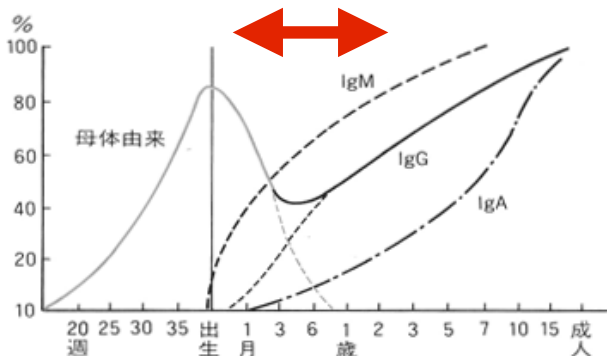
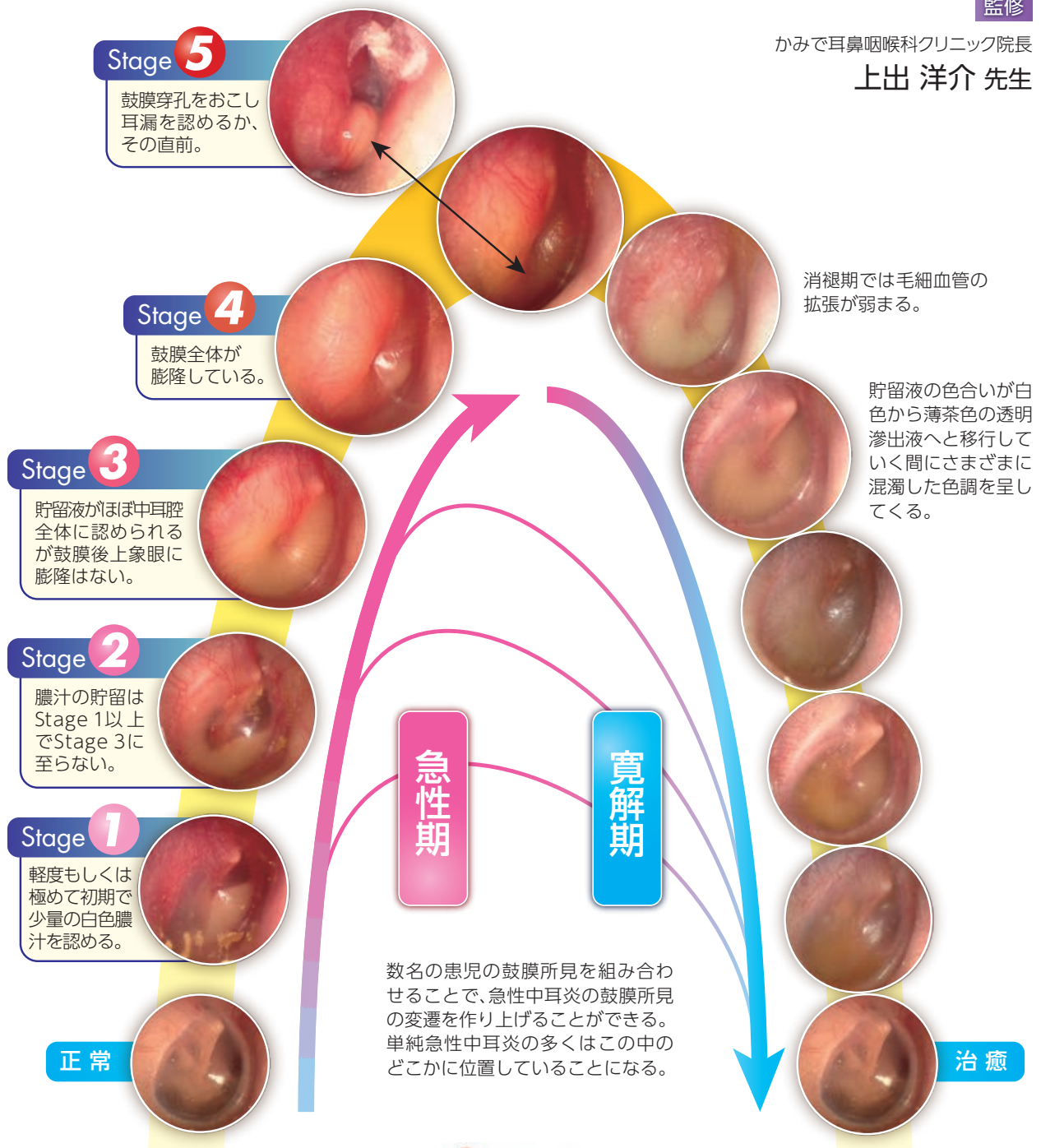


図1 血清免疫グロブリン値の年齢による変化（成人値を100とする相対値）（矢田純一より）



耳鼻科では、薬のほかに、**鼓膜切開**をして膿を出します。鼓膜の写真で治療を決めます。治りきらない前に次の風邪を引くと、また中耳炎を繰り返します。1年中、膿が溜まったままの子供さんも見かけます。聞こえないので、言葉も覚えず、成長発達に影響します。

中耳炎を予防するワクチン？

肺炎球菌ワクチンは、肺炎と髄膜炎を予防するワクチンで、生後2ヶ月から打つことができます。肺炎球菌は、中耳炎の最も多い原因で、このワクチンは中耳炎の予防効果もあります。国で決められた定期接種ワクチンです。後回しにしないで、保育園に入る前に必ず打ちましょう。

参考のページ

20年前から保育園症候群を啓蒙している小児科の先生の新聞記事です。



耳鼻科の先生が保育園症候群を解説しています。このパンフの参考にしました。